

国際・チャリティーラン 雨の中走った！応援した！

9・23 代々木公園特設コース



9月23日、代々木公園内特設コースで「第24回国際・チャリティーラン」(全国協賛三菱商事株式会社)を開催しました。企業・団体・東京YMCA内から、昨年を上回る84チーム504人がランナーとして参加。さらに254人のボランティアが大会運営を支え、応援の人々を含めて、総勢約1000人が集う大チャリティープログラムとなり、また多くの企業から、物品のご寄付も頂きました。

本大会の益金は、東京YMCAが行う障がい児プログラムのために大切に用いさせていただきます。ご支援下さった皆さん、ありがとうございました。(広報室)



「出会いと交わりが成長の糧に」

リーダーズフォーラム参加者より

リーダーの変化を見た

カウンセラー 内山舞

私がカウンセラーとして大事にした事は、グループのリーダーたちが今思った感じたりした事を何でもいいからとにかく発言する環境をつくる事でした。

3日間という限られた時間の中で、リーダーたちがいろいろな刺激を感じられるのはとにかく発言し合うことだと考え、各センターや活動内容の違いを例に挙げ、いつでもどのリーダーでも発言しやすいように心がけました。

最初は誰か何か発言してくれという雰囲気が出ていました。毎日何度も繰り返すうちに自発的になり、2日目の深夜には全員が偏りなく自然な形で発言

が出来るようになりました。残りわずかな時間を惜しむように、睡魔と闘いながら話をとっているリーダーもいました。さらには決して発言が得意でないリーダーが、フォーラム全体の場で発言している姿もあり、リーダーの大きな変化を見ることも出来ました。

またリーダーたちから、グループで〇〇がしたいという提案があり、全員で湖に入ったり、グループの歌を作ったり素敵な思い出を作ることが出来ました。リーダーたちはこれから素敵な人になろうと決まっています。その中になにに小さくても構わないので、フォーラムでの経験が含まれていたらいいなと思

いながら、彼らの今後の成長を心から願っています。(埼玉YMCAリーダーOG)

関わりの大切さを学ぶ

リーダー 奥墨美佳

今回参加しようと思った動機は、もっと多くのボランティアリーダーと関わりたいからです。私はリーダーとは一つの型にはまらないものであると考えていて、それならより多くの考え方に触れてみたいと思

い参加しました。期間中は多くの事を語り合いました。異なる環境で育った者同士、考え方、感じ方は様々であり、今まで出会わなかった価値観に出会う

こともありました。そしてリーダーとは一つの型にはまらないものであると考えていて、それならより多くの考え方に触れてみたいと思

い参加しました。期間中は多くの事を語り合いました。異なる環境で育った者同士、考え方、感じ方は様々であり、今まで出会わなかった価値観に出会う

こともありました。そしてリーダーとは一つの型にはまらないものであると考えていて、それならより多くの考え方に触れてみたいと思



自身の成長に繋がった

リーダー 櫻井 希

今回のリーダーズフォーラムは、私にとって出会いと成長の場になりました。

同じ「リーダー」という立場でありながら、集まったリーダーたちは地域や活動、経験年数、YMCAとの関わり方も様々で、この団体の規模の大きさを身をもって感じる事が出来ました。

そんな仲間たちとの語り合いや青山鉄兵さんの基調講演、キャンプファイヤ

ー、朝の集いなどでの先輩リーダーのお話。3日間では消化しきれない程たくさん「考えるきっかけ」をもらったと思います。

一番大きな学びは「リーダーとしての成長が自分自身の成長につながる」ということです。振り返れば私自身、リーダーとしての視

線や姿勢を学んできたこと、みんなで協力して一つの活動を作り上げていく経験は、YMCAの活動以外でも活かされていると思うし、私の性格も変わってきた部分があると思います。

これからの活動の中でたくさん悩み、多くのリーダーやメンバーと関わり、共に笑い、人として成長していきたいと思いました。(南コミュニケーションセンター)



東京1フロストバレー

異文化の中での子育て

ニューヨークに家族と移住し3年が過ぎた。日員を決め、行事の際には本からアメリカに移り住む先生と生徒との連絡役を務める。

日本人がいるクラスでリカでは比較的親が学ばしりもする。私もこの関わりを通じて深くのほりや、かぶとの折り紙、一寸法師の英語版の読みかせなどを行った。

家内も図書整理のボランティアやピザ配布、学校の参加度も高いように思

える。

学校では父兄のボランティアが図書の整理やピザ給食の配布などをはじめ様々な活動を行っている。

放課後の課外活動も有料だが、ほとんどの親は子どもにテニス、空手、楽器など様々な活動に参

加させている。週末には野球やサッカーの地域のリトルリーグに入れる親も多く、私も息子2人を参加させている。

アメリカでは子どもだけで出歩くことが出来ないため、どこに行くにも親が車で送り迎えをする。子どもが複数いる場合は両親が手分けをして送り迎えをし、それでも手が足りない場合は他の

親に頼んで車に乗せても

らったりする(カープー

ル)。試合には当然親も応援にかけつけ、決して自分の子どもだけではないチーム全員を応援する。将来、大学受験の際に、テストの結果だけでなく、どんな課外活動をしてきたかや、参加していたスポーツチームの成績なども考慮されるので、親も当然力が入るのである。

東京1フロストバレーに、テストの結果だけでなく、どんな課外活動をしてきたかや、参加していたスポーツチームの成績なども考慮されるので、親も当然力が入るのである。



Friendship fund

子ども支援ファンド



【募金へご支援下さい】

Friendship Fundの基金は、毎に年行われている未だに、子どもに新しい未来を

【郵便振替】
00100-2-146466
東京YMCAフレンドシップファンド

フレンドシップファンド

2010年度夏季キャンプ・プログラムとして

73の国内プログラム(コミュニケーションセンター主催)と4コースの海外キャンプ(国際協力部主催)を実施し、この夏もたくさんの子

どもたちが参加しました。自然の中でのびのびの体験は、子どもたちの豊かな感性を育みます。

東京YMCAでは、経済的困窮や本人を取り巻く状況などによって、活動への参加が困難な子どもたちを支援するために、「フレンドシップファンド」を設

け、今夏も福祉施設の子も2人がキャンプに参加できた。今後も一人でも多くの子どもたちがYMCAの

活動に参加できるように皆様のご支援をお願いします。

03-3615-5562

午餐会双書

それでも私はりんごの木を植える
青山学院大学名誉教授 小原 信氏
人のつながり・地域の課題
とげぬき生活相談所館長 坂口順治氏
賛助会事務局
03-3615-5568

午餐会双書

グローバル社会とYMCA
前日本YMCA同盟総主事 山田公平氏
グローバル公共哲学の地平
東京大学教養学部教授 山脇直司氏
賛助会事務局
03-3615-5568

午餐会双書

少子高齢化と医師不足
東京大学名誉教授 鴨下重彦氏
老いの旅路
社会福祉法人新生会理事 鈴木育三氏
賛助会事務局
03-3615-5568

松本敦史

